

# BJ☆information VOL.2

～熊本県へ被災地の視察を実施しました～

平成28年に熊本県で大規模な地震が発生し、さらには豪雨災害にも見舞われ、大規模な地震と水害が同時期に発生する「複合災害」を受けました。本市でも防災対策を検討する上で、女性の視点を取り入れ、更なる防災力強化を目指すため、BJ☆プロジェクトによる視察を実施しました。

10月19日（土）熊本城、益城町

熊本市役所から再建中の熊本城を視察



益城町のテクノ仮設団地を視察



## 視察参加者からのコメント

### 広報広聴課 古谷さん

避難所での生活では避難者同士のコミュニケーションが大切であり、避難所独自のルール（受付では挨拶、日中は仕切りカーテンを開ける等）があったからこそ自主運営を実現できたと感じました。また、仮設住宅へ移転した際も、起床した際は黄色の旗を出し、就寝する時はしまうことで安否確認を取り入れたり、子供が体を動かして遊べる野外広場の整備など避難者が孤立しないような取り組みを行っていたのが印象的でした。

### 介護福祉課 諸橋さん

災害は「必ず来る」とっておき、避難所生活になったとしても、日々の「生活の場」であることを認識し、今まで当然にしていたこと（トイレ掃除、布団をたたむ等）を続けていくことが大事。また、避難所に関わらず女性ならではの柔軟さや臨機応変さが周囲を明るく励ますことができると教わりました。

# 10月20日（日）宇土市内視察、宇土市総合防災訓練

宇土市内仮設住宅（プレハブ）



宇土市内仮設住宅（木造）



宇土市内復興住宅



## 宇土市総合防災訓練



## 宇土市職員と集合写真



## 視察参加者からのコメント

### 子育て支援課 滝口さん

宇土市総合防災訓練における避難所運営訓練では、机上の訓練でしたが与えられた場所でみんなで話し合いながら避難所のレイアウトを考えていて面白かったため、本市でも取り入れたらどうかと思いました。一方的に押し付けるのではなく、最後に運営側が考えたレイアウトを見せて開設していてよかったです。高齢男性が参加していたが、女性や子どもに配慮するスペース（更衣室や授乳室等）を例示で置いてあり、そういったものが必要と気づく機会にもなると思いました。

### 行政経営課 北原さん

避難所運営訓練では、益城町の事例を参考に、その時々において最善のレイアウトとなるように、避難者自らが、当事者意識を持って決めていくことが重要であると説明しており、被災自治体ならではの内容だと思いました。訓練全体の参加者については、高齢者が多いことが気になりました。市川市の訓練は子育て家庭の参加も多く、各世代が参加しやすい訓練であることが確認できました。ただし、学生の参加が非常に少ないため、学生発信コーナーなどがあると、今後さらに参加する世代が増えていくと思います。